

指導事例

※ 該当する項目を**囲み線**で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	自立活動		
タイトル	コロナウイルス！入ってこないで！！		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	人との距離を取ることが難しく、遊ぶ時も近くに寄ってしまう。マスクをすぐに外してしまい、大声でしゃべってしまう。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	マスクを外さないで、人との距離を空けながら生活することができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	コロナウイルスに関する紙芝居を見る。 感染防止に必要な距離について教具を操作することで確認する。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

1. 「コロナウイルスってなに？」の紙芝居を見る。

内容

- ① コロナウイルスってなに？
- ② どのような症状があるの？
- ③ どうやって感染するの？
- ④ 感染を防ごう！
 - ・ 3密（密閉・密接・密集）を防ぐ
 - ・ 窓を開ける
 - ・ 机を離す
 - ・ 手を広げられるくらい離れる
 - ・ 近くで大声で話さない
 - ・ 友達とくっつかない
 - ・ 物の貸し借りをしない



【うさぎの教具を動かして間隔をあけている】

⑤ ウイルスとたたかっている友達や家族を応援しよう

2. 密接・密集を避けるために、教具を操作して間隔を空けることの意味を理解する。

指導事例

※ 該当する項目を**囲み線**で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・ 4 ・5・6年
指導場面	授業・ 学級活動 ・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・ 知的障害 ・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学級活動		
タイトル	すごろくで楽しく学ぼう！ ～自分たちでできるコロナ対策～		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	新しい環境に不安を示すことが多く、自分で考えて行動することが苦手である。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	すごろくを進めながら、学校における感染防止のための「新しい生活様式」をクイズに形式で学ぶことで、感染症防止の方法を自分で考えながら理解することができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	マスクのつけ方、人との距離の取り方など、感染防止の方法を実体験しながら学ぶ。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・ すごろく「**コロナにまけずに げんきに すごそう! がんばるぞ!**」をサイコロをふって進めていく。
- ・ 5色に色分けしたコマを進め、赤色でとまると、コロナ対策クイズに答える。



〈クイズ〉

コロナウイルスに感染しないために手を洗う方法で、一番よいのはどれでしょう。

- ① 水だけで洗う。
② せっけんを使って洗う
③ 洗わなくてよい。

新型コロナウイルスに感染したり、他の人に感染させたりしないためのマスクのつけ方で、一番よいのはどれでしょう。

- ① 口と鼻をおおう。
- ② 口だけをおおう。
- ③ マスクをしなくてよい。

人とどのくらい離れるのがよいでしょう。

- ① 10センチくらい（かたが当たるくらい）
- ② 1メートル以上（両手をひろげたくらい）
- ③ 10メートル以上（教室のはしとはし）

新型コロナウイルスに感染していないか、確かめる方法として、毎朝するとよいことはどれでしょう。

- ① 体温をはかる
- ② ごはんを食べる。
- ③ 手を洗う。

新型コロナウイルスの対策として、教室の窓などは、どのように開けるとよいでしょう。

- ① ろうかがわの窓だけを開ける。
- ② 運動場がわの窓だけを開ける。
- ③ ろうかがわと運動場がわのりょうがわの窓を開ける。

- ・クイズの答えを考えるとき、実際にマスクのつけ方を確認したり、距離を取り実感させたりする。
- ・すごろくのルールを守りながら、クイズに答え、ゴールできたことを認め、これからも感染症予防の対策をしていく意欲を持たせる。

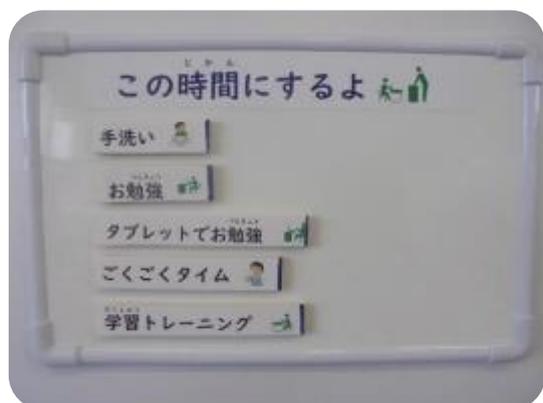
指導事例

※ 該当する項目を**囲み線**で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・ 4 ・5・ 6 年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・ 自閉症・情緒障害 ・学習障害・ 注意欠陥多動性障害 ・その他		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	学習用具が散らばり、床に落としてしまいがちである。ブロックやカードなど複数で触るものがある。人との距離の取り方が難しく、近くによってしまう。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	こまめに手洗いすることで、接触感染を防ぐ。 感染防止に必要な距離を保って話すことができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	今からすることをホワイトボードに示し、「手洗い」をこまめに入れる。ついたてによって、物理的に距離をとることができる。接触機会や、唾液の飛沫が少なくなる。		

- ・「手洗い」とかいたマグネットを学習内容の一番上に貼ることで、手洗いを徹底させている。
- ・不安に思っている児童がいたので、3月に「コロナウイルスってなあに」の紙芝居を読み、感染防止のために必要なことを説明した。
- ・どうしても距離が近くなりやすいので、児童と児童の間についたてを設けることで、飛沫感染を防いでいる。
- ・交流のため、学級生以外の児童も特別支援学級で遊ぶことを許可していたが、感染防止の観点から教室への入室を一時禁止している。

ついたて



指導事例

※ 該当する項目を**囲み線**で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	国語		
タイトル	ソーシャルディスタンスを守って、ひらがなかるたをしよう		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	まだ十分にひらがなを覚えておらず、座学だけでは集中がとぎれる。勝ち負けにこだわり、負けたり、先を越されたりすると、やる気をなくし、ゲームとして楽しめない。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	興味を持ってひらがなに親しむのに「かるた」は有効であるが、早い者勝ちではなく、必ず自分のが札をとれるという満足感を味わえる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	かるたはお互いの距離がちかくなるので、それぞれのスペースを確保する。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・一人ひとりにマットを用意し、ひらがなカードを並べる。
- ・勝敗にこだわり、負けるとゲームを楽しめなくなるので、それぞれにカードを用意し、必ずカードが取れるようにする。
- ・文字の習得に個人差があるので、カードの文字を変えて、苦手な児童には読める文字を札としておいてやる。
- ・かるた形式で、教師が言った言葉の文字をそれぞれのマットから見つける。
- ・順番を決め、交代ですすめていく。

